

# 2022 年度 第 4 回企画環境委員会 議事録

【日 時】 2023 年 1 月 30 日 (月) 13:30 ~ 17:00  
【会 場】 ハイブリッド会議 (日本代協 事務局会議室、Zoom)  
【出席者】 松本委員長

北海道	広川	北東北	伊藤	南東北	佐々木	上信越	片桐
東関東	五木田	南関東	大久保	東京	西條	東海	井戸
北陸	川尻	近畿	是洞	阪神	中塔	東中国	阿部
西中国	村松	四国	開出	九州北	麓	九州南	谷口

【オブザーブ】 小俣副会長  
【事務局】 小見常務、大谷部長 【司会】 広川副委員長 【議事録】 事務局

## 【委員会の要旨 (確認、決定したこと)】

1. ジギョケイ・社労士診断認証を取得したことによる好事例を収集し direct で共有する

## 議 事

### . 挨拶

#### 1. 松本委員長挨拶

- ・本日は、忙しい中また寒波で交通が乱れる中お集まりいただき感謝申し上げます。期末に向け積極的な議論をしていきたい。
- ・目標に対する進捗で、BCP は 32%、ジギョケイは 45%、社労士診断が 33.2%と若干遅れ気味なので年度末に向けて追い込みしていただきたい。一方で三冠王項目になっていないリスクマネジメント講座については、ほとんど数字が出ていない状況である。致し方ないとはいえ、取組を進める以上は力を入れる必要がある。
- ・結果だけ見ると、三冠王を取ることが目標となっているという側面もなきにしもあらずと思っているが、実をしっかりとることを意識していただきたい。言われたからやるのではなく、我々が取り組んでいることは自主性をもって能動的に行うことで初めて価値向上につながるものだと思うので、自主性をもって取り組んでいける方向付けを考えていきたい。
- ・「集い・語り・高めあう」ためにも、相互の依存ではなく、自主的に取り組む姿勢を促すように推進していく必要があるのではないだろうか。
- ・リンゲルマンの法則では、一人だと 100%の力で頑張るが二人になると 93%に、八人になると一人当たり 49%の力しか発揮できなくなるといわれている。そういった中で、一人一人が成長せず、もたれあってしまったり、環境変化に抗って成長を止めてしまうと、代協の価値向上どころか、価値を下げてしまうことになるので、そうならないようにしないといけない。
- ・毎日 1%成長すると 1 年間で 37.8 倍、1%マイナス成長だと 0.03 倍になってしまうと言われてるように、一人一人の会員が成長することに意識を向けて 1 年間取り組むだけで全く違った世界が見えてきます。企画環境委員会は、これまで守るというイメージが強かったかもしれないが、これからはいい意味で業界を変える・進化させる委員会にしていかないとならないと思っているので、未来に目を向けた発想で取組を行っていただきたいし、少なくともここに集まるメンバーは高い意識をもって現場で話をしていきたい。

#### 2. 新任委員の紹介

九州南ブロック 鹿児島県代協 谷口委員が自己紹介を行った。

### 3. 司会進行・議事録作成者の指名

- ・司会進行に広川副委員長、議事録作成者に事務局が指名された。

#### ・報告事項

##### 1. 報告事項

###### (1) 第6回 理事会報告

事務局より事前配信した第6回理事会議事録の内容に沿って説明が行われ、以下補足をした。

- ・審議事項「2023年度日本代協事業計画の検討(各代協・ブロックからの提言)」「日本代協アカデミーのコンテンツ充実計画案」「2023年度『仲間づくり推進』入会目標ガイドライン案」「2022年度仲間づくり推進キャンペーンの実施」「委員会委員の交代」につき審議が行われ承認された。
- ・事業計画進捗状況について、地区担当理事・各委員会委員長より報告があった。

###### (2) 第3回全国会長懇談会報告

事務局より事前配信した第3回会長懇談会次第の内容に沿って説明が行われた。

松本委員長より、グループディスカッションについて下記補足があった。

- ・マーケットデザインは昨年の金融庁との意見交換会において、これまでの代理店制度のあり方を変えていく必要があるのではないかという話題になったもので、その前提として栗山アドバイザーのセミナーがあった。
- ・グループディスカッションに参加された会長たちからは、頭ではわかっているが実行に移すことが難しい、環境変化に対応するにはチャレンジしなければならないし、お金も時間もかかる。環境変化を受け入れて対応するにもどのようなステップを踏んでいかなければならないのかが課題、との意見があった。
- ・いくらマーケットデザインとしてきれいなものを考えても、そこに行きつくアクションを取っていくことを考えていかなければならないという議論が交わされた。

栗山アドバイザーのセミナー動画と資料は日本代協ホームページの会員専用書庫にアップされている。

#### ・審議事項

##### 1. 募集現場の実態のモニタリング

2件の不公正募集(ディーラー2件)案件を共有し、案件を提出した委員より補足があり、現地に対応した旨報告があった。

- ・委員より事案の補足があり、いずれも現地に対応した旨報告があった。

「自動車保険新規加入で2,000円のサービス提供」というチラシの紹介があった。

- ・取引保険会社に見解を確認するよう依頼し、結果をdirectにアップする。

(松本委員長より補足)

- ・昨年との比較で報告が少なくなっているが、減ってきたのではなく情報が上がってきていないのではないだろうか。引き続き情報収集お願いしたい。
- ・委員会 direct で委員会取り組み事項のアンケートを行ったが、そこでは「情報が不完全で提出まで至らない」「フィードバックが期待できない」等の意見があったが、不公正募集の対応は現地で行っていただき、日本代協は集まった情報を損保協会に報告している。それ以上の要望があれば、できるできないは別としてご意見をいただきたい。

大阪代協で昨年実施したアンケートについて中塔委員から報告があった。

- ・テーマは「保険会社とのコミュニケーションギャップ」「提携事業について」であった。
- ・電話でのフォロー、各支部長の協力のもと回答率は56.6%(前回は18%)であった。
- ・財務局、保険会社にも結果を連携したので、活力研等でも討議していただきたい。

- ・アンケートの詳細は委員会 direct にアップする(大阪代協 HP から閲覧可能)。

## 2. 代理店の価値向上策(ジギョケイおよび BCP 作成推進)について

広川副委員長より

- ・北海道の理事会に小田島会長、金澤専務が参加していただきその場でジギョケイのアピールをしていただいた。企画環境委員から伝えるよりかなりインパクトがあった。
- ・顧客本位の業務運営につなげるには、まずは、我々企画環境委員が危機感をもって取り組まなければならないと感じている。
- ・北海道では経済産業局と連携してセミナーを開催しているので参考にしていきたい。
- ・作成したチラシに G ビズサイトへのアクセス URL を掲載した。今後手書きの申請ではなく電子申請となるので、G ビズ ID の取得が必要である。
- ・地域によっては、補助金制度があるのでそちらも活用していきたい。

(主な意見)

- ・大阪代協では、トップレベルを上げるため損保 4 社の認定プロ代理店のなかでジギョケイ認定していない代理店をターゲットに推進している。また、3/6 に粕谷アドバイザーを講師にジギョケイ認定取得セミナーを開催する。G ビズ取得を前提条件としてセミナーに参加すれば申請を上げるだけにまで持っていけるような内容とする予定である。周知方法は HP だけでなく LINE を活用している。
- ・宮城では支部での勉強会を開催し成果が出ている。今後、宮城県の後援でセミナーを開催することができるので、さらに取り組みが進むであろう。また、宮城県ではジギョケイを取得し活動すると給付金が支給される。
- ・北東北ブロックでは、BCP は比較的進んでいるがジギョケイは遅れている。まずは、役員が取得してから浸透させていく。
- ・東京代協で 2/16「代理店経営サポートデスクの賢い使い方」セミナーを開催する。他代協の方も参加可能となっているので参加していただきたい。
- ・認定取得から 3 年で更新が必要だが、経産省から「なぜ、また取るのか？」と言われたそうだが、必要ないのか。  
実効性の高い防災・減災対策を行っていただく観点から更新制度は設けていないが、直近の実施状況の報告が求められている。

小俣副会長より

- ・企画環境委員会で推進している施策は代協のためでなく、我々代理店の本業としての価値向上策であり、ジギョケイを取得すること、社労士認証を取得することがゴールではなくスタートラインになるのではないだろうか。隣の代理店が取らないのなら取らないで差別化が図れるのである。ただ、代協としての事業計画ではそういうわけにいかず、業界を良くしていくために、たった一店が良くなってもお客さまの目は変わらないので業界全体が良くならなければ個の代理店の評価は上がらないことを皆さんは理解されていると思う。
- ・本業でのターゲット企業にジギョケイの提案をしたことによって成約したこともあるので間違いなく本業にもつながる取り組みである。社労士認定についても同様に採用に大きな影響が出てくると思う。企画環境委員会で推進している施策はゴールではなくスタートだということを理解していただきたい。

松本委員長より

- ・認証取得してそれで終わってしまったたら意味がない。お客さまに対してしっかり伝えていくことが差別化につながり、本当の意味での価値向上策になるのだと思うので、今後は取得後の好事例も収集していただきたい。

## 3. 代理店の価値向上策(リスクマネジメント講座推進)について

西條副委員長より

- ・RM 講座取組推進の目的は、商品売りから脱却してお客さまを取り巻くリスクを包括して、真の

顧客ニーズに対応することであることを皆さんが腹落ちしていただき、各県の委員に伝えていただきたい。

- ・委員へのアンケート結果から、うまく進んでいないのはアカデミーの登録が壁になっている、三冠王の項目に入っていないので後順位となっている、アカデミーからの入り方がわからないといった理由が挙げられている。
- ・改めてチラシを作成したので、会員に広めていただきたい。

(主な意見)

- ・東中国ブロックでは、ブロック・県事務局から情報発信が頻繁に行われているのでうまくいっている。
- ・リスクマネジメント講座が格安で受講できるので代協に入会した会員もいる(昨年、秋田で松本委員長がリスクマネジメントセミナーを開催した時の受講者)。
- ・宮城では、県の委員長が全員交代したタイミングで委員長会議を開催している。そこで各委員会の推進事項を共有し取組んでおり、その中でアカデミー登録を絡めた推進をしていきたい。
- ・大阪でも 2023 年度事業計画を考える中で、教育・組織・企画環境委員会それぞれの課題を共有して推進していく。
- ・アカデミーからの入り口がわかりにくい。

小見常務より

- ・昨年、全国会長懇談会セミナーで損保協会の岩崎 前専務理事が、「これからの環境変化に対応するためには、DX の推進、お客さまとの接点強化、法人契約の推進、新種保険の拡販が必要である」「新種保険を拡販するにはリスクマネジメントスキルが重要である」と講演されたが、まだ後順位になっているのではないかと。まずは企画環境委員、役員が実践して会員に伝えていただきたい。

松本委員長より

- ・アカデミーのシステムが改変されるタイミングなのでリスクマネジメント講座についても申し込みやすくなると思いますし、アカデミーのチラシを作成するときにはリスクマネジメント講座の事も掲載してほしい等の要望を出しているため、今後は分かりやすくなると思う。
- ・日本代協アカデミーからリスクマネジメント講座申込画面への入り口は昨年開催した全国会議で案内しているので資料を確認していただきたい。
- ・秋田県代協の事例にあるように、意識の高い代理店にはリスクマネジメント講座が入会の動機付けになることもあるので、組織委員会との連携もお願いしたい。
- ・百聞は一見に如かず、自分が受けてみて頂きたい。その中で改善点があれば意見をいただき、内容をブラッシュアップしていくことも必要だと考えている。

#### 4. 代理店の価値向上策(社労士診断認証制度推進)について

開出副委員長より

- ・チラシを再作成し「経営労務診断のひろば」サイトへの QR コードを掲載し簡単にアクセスできるようにしたので、活用していただきたい。
- ・事前のアンケートでは、上手くいっているブロックと上手くいっていないブロックが半々であったが、上手くいっているブロックの取り組みについて聞かせていただきたい。
- ・取り組みの意義を腹落ちしないと、宣言しただけになってしまうので、しっかり理解していただきたい。

(主な意見)

- ・東中国ブロックでは、取得の意義がまだまだ理解されていない。岡山県代協は社労士と連携しているので企画環境委員には意識改革を徹底するよう推進する。
- ・千葉では、理事会の場で宣言企業登録を行い、各委員会でも同様なやり方で、その場で宣言してもらおうようにしておりブロック協議会でも共有した。
- ・岐阜県代協では、意識付けと認知向上のため9月から社労士診断とジギョケイ認定のキャン

ペーンを行い一定成果は出てきているが、全会員へ伝えることに苦慮している。

- ・西中国ブロック協議会、広島県代協理事会でその場で登録を依頼、今後支部会でも同様に依頼して広めていきたい。ただ、次の段階である実施企業、適合企業認定に向けてまずは自らが取り組んでいる。
- ・大阪代協では、会員である社労士に依頼し「社労士診断認証取得&活用セミナー」を開催し、取得するだけでなく、お客さまへの提案による法人開拓推進を検討している。
- ・求人広告を使ってみたが、条件として社労士診断については触れられていないので認知度が低いのではないかと。もっと広まれば、取得が進むと思う。

松本委員長より

- ・社労士診断は、保険代理店として取り組むことも必要だが、人事労務リスクが高まる中、お客様にとっても重要性が高まっているのは事実である。そこにアプローチするためにも推進していくべき取組であり、最初のステップはいろいろあると思うが、宣言申請を単純な作業として行うのではなく、一つ一つのチェック項目を読み込んでいくことによって自社の価値向上に繋がっていくことが大切である。
- ・実施企業、適合企業になるには費用が掛かるが、価値を高めるためには費用は掛かるものであり、その気概をもって取り組んでいただきたい。
- ・また、社労士診断認証を取得していないと参加できないシンポジウムなどもあるので地域ごとに調べてみると参考になると思う。

#### 5. 2023年度取組み課題について

松本委員長から次年度の取組み課題(事業計画)について、2月の理事会で審議されるが、現段階で考えている内容の報告があった。

#### 6. その他

- ・「代協活動の現状と課題」に企画環境委員会としての取組が記載されていないのはなぜか。冒頭の日本代協の概要に各委員会の活動について記載されている。また、事業計画には委員会への諮問事項が記載されている。

### ・その他情報提供・閉会

#### 1. 情報共有

事務局より下記情報共有があった。

- ・日本代協事務局が5月中旬～7月までの間に東京駅前に移転する。
- ・損保協会と連携した「災害に便乗した悪質な業者対策」として、台風14号・15号で災害救助法適用地域となった代協で契約者への注意喚起メールを展開、日本代協ホームページ・日本代協アカデミー(募集人教育支援サイト)に損保協会が作成した「悪質な住宅修理業者特設サイト」のリンクを貼り付けているので、皆様のホームページでも周知していただきたい。今後は、各代協・ブロックでの行事にも損保協会支部から情報提供があると思うので協力お願いします。
- ・広報委員会で作成したPR動画が配信されているので、活用願いたい。

#### 2. 本日の到達点の確認、次回以降日程確認

- ・事務局より、本日の決定事項・次回以降委員会開催日程を確認した。

#### 3. 小俣副会長所感

- ・全国各地から遠路はるばるお越しいただき、貴重な時間を共有することができたと思う。
- ・我々は一企業の店主もしくは責任者であり、各地域での雇用を確保する社会的使命も抱えている。そこを含めて、保険を通じながら責任を果たしていきたいと思っている。
- ・代協は縦割り行政ではなく、推進している事項は例えばジギョケイやアカデミーを活用して会員募集をする、といったように各委員会につながっているので、各委員長もしくは地域担当理事と連携を取ってコラボレーションしていただきたい。

- ・更にステップアップした施策を期待する会員も多い。これに応えていくことも当委員会には託されていると思う。代協も進化していかねばならない。
- ・昨年度、活力研でコミュニケーションギャップについて討議したが、代協の中でもコミュニケーションギャップはあると認識し反省している。このギャップ解消の橋渡しになっていただくのが委員会の皆さんであることを理解いただき、つらい立場ではあるが現地で広めていただきたい。
- ・本日はお疲れ様でした。

以上

次回以降開催日（予定）

第1回企画環境委員会 2023年4月11日(火) 13:30～17:00

第2回企画環境委員会 2023年6月26日(月) 13:30～17:00(予定)

第3回企画環境委員会 2023年9月11日(月) 13:30～17:00(予定)

第4回企画環境委員会 2024年1月16日(火) 13:30～17:00(予定)

各回の際にWEB委員会開催を検討